柴田真郁 Maiku SHIBATA

1978 年東京生まれ。国立音楽大学声楽科を卒業後、合唱指揮やアシスタント指揮者として藤原歌劇団、東京室内歌劇場等で研鑽を積む。
2003 年に渡欧、ドイツ各地の劇場、オーケストラで研鑽を積みながら、04 年にウィーン国立音楽大学マスターコースでディプロムを取得。05 年、バルセロナのリセウ大歌劇場のアシスタント指揮者オーディションに合格し、ヴァイグレ、ロス＝マルバ氏等のアシスタントとして、様々な上演に携わる。10 年には再度渡欧し、イタリアの劇場を中心に研鑽を積んだ。
帰国後は主にオペラ指揮者として活動。最近では 18 年にマスネ「ナヴァラの娘」（日本初演）、19 年にプッチーニ「ラ・ボエーム」、20 年にはヴェルディ「リゴレット」をそれぞれ藤原歌劇団と共演。20 年 11 月には日生劇場にて「ルチア～あるいはある花嫁の悲劇～」も指揮し、好評を博す。近年では管弦楽にも力を入れ、読響、東響、東京フィル、日本フィル、神奈川フィル、名古屋フィル、日本センチュリー響、大響、群響、広響等と共演。
指揮を十束尚宏、星出豊、ティロ・レーマン、サルバドール・マス・コンデに師事。2010 年五島記念文化財団オペラ新人賞（指揮）受賞。

粟國 淳 AGUNI Jun

東京生まれローマ育ち。ローマ・サンタ・チェチーリア音楽院でヴァイオリンと指揮法を学ぶ。オペラの演技・演出法を M.ゴヴォーニに師事。ローマ歌劇場の演出部で研鑽を積む一方、新国立劇場では F.ゼッフィレッリ、L.ロンコーニ、等巨匠達の演出助手を務めた。1998 年から文化庁派遣芸術家在外研修員として渡伊、ヘニング・ブロックハウス氏のもとで研鑽を積んだ後、P.ファッジョーニ、A.ファッシーニ等の片腕としてヨーロッパを拠点に活躍。97 年藤原歌劇団公演『愛の妙薬』で演出家デビュー。びわ湖ホール、二期会、神奈川県民共同制作『トゥーランドット』、『アイーダ』、『オテロ』東京二期会『仮面舞踏会』愛知トリエンナーレ『ホフマン物語』、藤原歌劇団『ファルスタッフ』、『ノルマ』、日生劇場オペラ・日本初演『アイナダマール』、紀尾井ホールバロックオペラ『オリンピーアデ』、新国立劇場『ラ・ボエーム』『セビリアの理髪師』『おさん』『外套』等多数の作品を手がける。海外では『アンドレア・シェニエ』『エルナーニ』『ホフマン物語』を演出。オペラを観ながら演劇の心理劇を見ているかのような錯覚を観客に抱かせる演出は、国際的にも評価が高い。新国立劇場オペラ研修所演出主任講師。日生劇場芸術参与。11 年度エクソンモービル音楽賞奨励賞受賞。